

地域ワーキング提言

長浜・米原地域(旧伊香郡を除く)は、四季折々の美しい景観を見せる琵琶湖や伊吹山、小谷城などの戦国ゆかりの史跡、秀吉の時代から受け継がれる城下町など多くの観光名所を擁する魅力あふれた地域である。

当地域の道路は、関西圏と中部圏・北陸圏を結ぶ名神高速道路や北陸自動車道のほか、国道8号、21号、365号などの幹線道路、地域内の交通を担う主要地方道や県道・市道により構成されているが、小谷城スマートインターチェンジの整備を契機に、地域全体の道路ネットワークの結びつきを強めていくことで、域内の移動性が高まり、観光をはじめとした産業活性化や生活の利便性向上など、地域の活力が高まっていくことが期待される。

その一方、歩道の設置されていない道路が残存していることから、障がい者をはじめとする交通弱者の通行環境を改善する必要がある。特に、通学路の危険性を指摘する意見が多いため、通学路の安全性を高めることも重要である。

また、市町村合併に伴う地域間の連携強化、災害時の広域的な避難経路の確保といった観点から、道路ネットワークの構築も課題である。

当地域ワーキングでは、アクションプログラムの見直しにあたり、地域の課題や重点的に整備すべき項目等について平成24年8月から3回にわたって議論してきた。この地域ワーキングでの議論をふまえ、今後、真に必要な道路整備が無駄なく着実に推進されることを願い、以下の事項を提言する。

1. 地域の魅力や活力を高める道路整備の推進

優れた観光資源を多く擁する長浜・米原地域の魅力をも十二分に引き出し、地域の活力を高めていくため、観光拠点間の連結性を高めるなどの観光・交流基盤としての道路整備を推進することが必要である。

2. 安全・安心・快適に移動できる道づくり

子どもや高齢者、障がい者といった交通弱者や自転車・歩行者など、誰もが安全・安心・快適に移動できるよう、通学路をはじめとした歩道や自転車道の整備を進めていくことが必要である。

3. 基幹道路と生活道路の役割分担の適正化

広域的な交通を担う幹線道路の整備を進めることで、地域内の交通を担う生活道路との役割分担を適正化し、円滑性と快適性の両面を高める道路ネットワークを構築することが必要である。

4. 災害に強い広域的な道路ネットワークの整備

東西・南北軸や合併市町の連携強化を図るなど、地域の骨格となる道路整備を進めるとともに、豪雨や豪雪、地震等の災害時において、一部の道路が寸断しても別のルートが確保できるような代替性のある道路ネットワークの構築が今後重要である。

5. 構造物の長寿命化に向けた維持・管理の充実

今後、急速に進む橋梁などの構造物の老朽化に備え、新設だけでなく効率的な更新や維持管理を充実させていく必要がある。

6. 地域の意見を活かした道づくり

地域ワーキングで議論してきた内容の早期実現に向け、道路管理者、関係者、地域の連携のもと、地域の意見を活かした道づくりの推進が望まれる。